

## 日興グラビティ・ファンド

## 償還 運用報告書(全体版)

第10期(償還)(償還日 2022年8月29日)

## 受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚くお礼申し上げます。

「日興グラビティ・ファンド」は、信託約款の規定に基づき、2022年8月29日に信託期間が終了し、償還いたしました。

ここに、設定以来の運用状況と償還内容をご報告いたしますとともに、受益者のみなさまのご愛顧に対しまして、重ねてお礼申し上げます。

## 当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信/内外/株式
信託期間	2012年9月21日から2022年8月29日までです。
運用方針	主として、日本を含むアジアの企業が発行する株式を主要投資対象とする投資信託証券(投資信託または外国投資信託の受益証券(振替投資信託受益権を含みます。))および投資法人または外国投資法人の投資証券をいいます。)の一部、またはすべてに投資を行ない、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行ないます。
主要運用対象	「グラビティ・エクイティ・ファンド クラスA」受益証券 「マネー・アカウント・マザーファンド」受益証券 上記の投資信託証券を主要投資対象とします。
組入制限	投資信託証券、短期社債等、コマーシャル・ペーパーおよび指定金銭信託以外の有価証券への直接投資は行ないません。 外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。
分配方針	毎決算時に、原則として分配対象額のなかから、基準価額水準、市況動向などを勘案して分配を行なう方針です。 なお、分配対象額が少額の場合には分配を行なわないこともあります。

&lt;653276&gt;

## 日興アセットマネジメント株式会社

東京都港区赤坂九丁目7番1号  
www.nikkoam.com/

当運用報告書に関するお問い合わせ先

コールセンター 電話番号：0120-25-1404  
午前9時～午後5時 土、日、祝・休日は除きます。

●お取引状況等についてはご購入された販売会社にお問い合わせください。

## 【運用報告書の表記について】

・原則として、各表の数量、金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しておりますので、表中の個々の数字の合計が合計欄の値とは一致しないことがあります。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。

## ○最近5期の運用実績

決算期	基準価額 (分配落)	税 分 配 金		期 騰 落 率		債券組入比率	投資信託組入比率	純資産総額
		税 分	配 金	騰 落	率			
	円 銭		円		%	%	%	百万円
6期(2018年8月28日)	20,197		500		7.2	—	97.0	1,095
7期(2019年8月28日)	17,029		500		△13.2	—	96.8	748
8期(2020年8月28日)	17,878		500		7.9	—	97.0	687
9期(2021年8月30日)	22,062		500		26.2	—	97.0	752
(償還時)	(償還価額)							
10期(2022年8月29日)	18,935.80		—		△14.2	—	—	519

(注) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「債券組入比率」は実質比率を記載しております。

(注) ファンドの商品性格に適合する適切なベンチマークおよび参考指数はございません。

## ○当期中の基準価額と市況等の推移

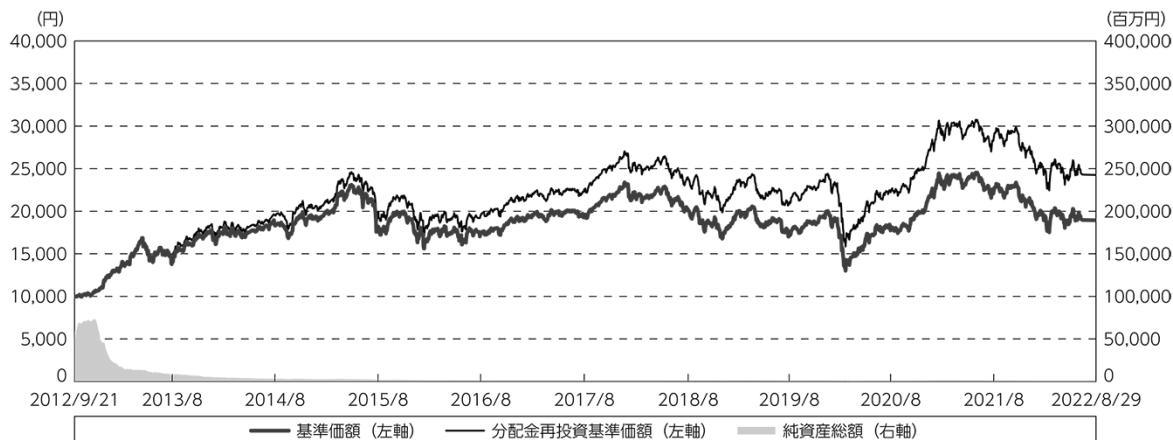
年 月 日	基準価額	騰 落 率		投資信託組入比率
		騰 落	率	
(期首) 2021年8月30日	円 銭 22,062		% —	% 97.0
8月末	22,276		1.0	94.9
9月末	22,304		1.1	96.8
10月末	22,732		3.0	97.1
11月末	21,694		△1.7	96.8
12月末	21,248		△3.7	97.1
2022年1月末	19,106		△13.4	96.7
2月末	19,286		△12.6	96.9
3月末	20,084		△9.0	96.9
4月末	19,212		△12.9	96.5
5月末	18,748		△15.0	97.0
6月末	19,771		△10.4	96.8
7月末	18,958		△14.1	—
(償還時) 2022年8月29日	(償還価額) 18,935.80		△14.2	—

(注) 騰落率は期首比です。

## ○運用経過

(2012年9月21日～2022年8月29日)

## 設定以来の基準価額等の推移



設定日：10,000円

期末(償還日)：18,935円80銭(既払分配金(税込み)：4,500円)

騰落率：142.6%(分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

## ○基準価額の主な変動要因

当ファンドは、主として、日本を含むアジアの企業が発行する株式を主要投資対象とする投資信託証券に投資を行ない、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行なっておりましました。信託期間中における基準価額の主な変動要因は、以下の通りです。

## ＜値上がり要因＞

- ・企業収益が上向き、好調な経済指標が続いたこと。
- ・世界的に低金利が続いたこと。
- ・グローバルで新型コロナウイルスのワクチン接種の迅速な実施や各国の中央銀行による流動性供給の姿勢が強まったこと。

### <値下がり要因>

- ・米国と中国との間の貿易協議を巡る不透明感が広がったこと。
- ・新型コロナウイルスの感染拡大によって、経済活動に悪影響が及ぶとの懸念が強まったこと。
- ・ロシアがウクライナに侵攻したことでインフレ圧力が強まり各国の中央銀行による金融政策スタンスの引き締めを受けて、世界の経済成長の下振れリスクが高くなったこと。

## 投資環境

### (株式市況)

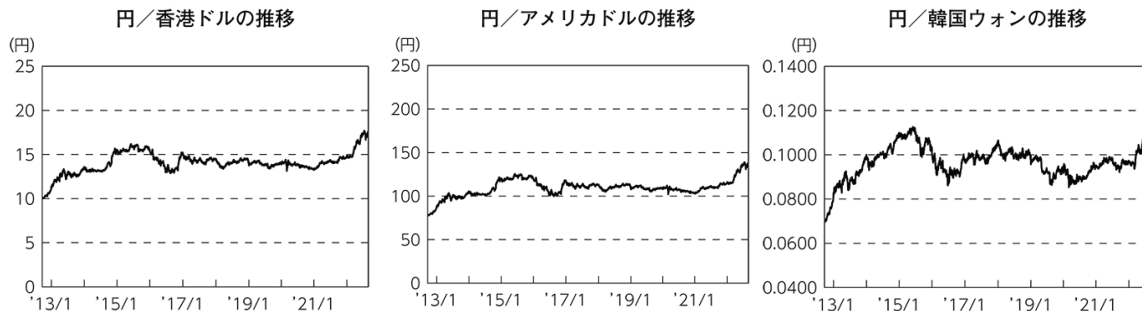
期間中の域内の株式市場は上昇しました。期間の序盤は、企業収益が上向き、好調な経済指標が続くなか、パフォーマンスが下支えされました。しかし、米国と中国との間の貿易協議を巡る不透明感が広がったことや新型コロナウイルスのパンデミック（世界的な大流行）の様相が見受けられ始めると、こうした上昇に歯止めがかかりました。新型コロナウイルスの感染拡大によって、パンデミックの恐れが高まり、経済活動に悪影響が及ぶとの懸念が強まると、株式市場では全面的な売りに拍車がかかりました。加えて中国では、規制の強化がテクノロジーや教育セクターの企業に打撃となるなど、多くの要因が株式市場に悪影響をもたらしました。中国企業の国外（特に米国）株式市場の上場方法に関する新たな規制も、投資家心理の妨げとなりました。また、中国の大手不動産開発業者について、流動性危機の可能性があるとの懸念が高まりました。こうしたなかでも、グローバルでは新型コロナウイルスのワクチン接種の迅速な実施や各国の中央銀行による流動性供給の姿勢、世界の株式市場のより堅調な推移などポジティブな展開が見受けられ、投資家心理全体を下支えしました。より最近では、各国の中央銀行による金融政策スタンスの引き締めを受けて、世界の経済成長の下振れリスクが市場心理を悪化させています。中国のゼロコロナ政策のタイミングや出口戦略が明確でないことも、市場の懸念につながっています。

### (国内短期金利市況)

期間の初めから2013年1月にかけては、日銀が金融緩和の強化を実施したことなどから、無担保コール翌日物金利は概ね0.1%を下回る水準で推移し、国庫短期証券（TB）3ヵ月物金利は概ね0.1%近辺で推移しました。2013年2月から2015年12月にかけては、2013年3月に黒田日銀総裁が就任後、4月に「量的・質的金融緩和」を導入したことなどから、無担保コール翌日物金利は概ね0.1%を下回る水準で推移しました。その間、TB3ヵ月物金利は2014年9月にはマイナス金利まで低下し、その後も概ね0.0%を挟んだ水準で推移しました。2016年1月以降は、日銀によるマイナス金利政策の導入を受けてコール市場でもマイナス圏での取引が続く、無担保コール翌日物金利は-0.04%近辺で期間末を迎えました。TB3ヵ月物金利は日銀による国債買入れの継続などを受けてマイナス圏での推移が続き、-0.11%近辺で期間末を迎えました。

(為替市況)

信託期間中における主要通貨（対円）は、下記の推移となりました。



## 当ファンドのポートフォリオ

(当ファンド)

当ファンドでは、収益性を追求するため、「グラビティ・エクイティ・ファンド クラスA」受益証券を高位に組み入れ、「マネー・アカウント・マザーファンド」受益証券への投資を抑制しました。

当ファンドは2012年9月21日の設定以来、約9年11ヵ月にわたり運用してまいりました。このたび、約款の規定に基づき、信託終了日を2022年8月29日として償還いたしました。

これまでのみなさまのご愛顧に対しまして、心より厚くお礼申し上げますとともに、今後とも弊社投資信託をご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

(グラビティ・エクイティ・ファンド クラスA)

最も優れた投資先だと考えるのは、キャッシュ創出力があり、優れた経営陣を擁し、長期的に良好な成長が見込まれる企業です。テクノロジー分野の多くの企業は、足元でバリュエーション（株価評価）が歴史的な低水準で取引されており、世界の他の銘柄と比べて大幅に割安な水準にあります。ビジネスモデルが変化する可能性を認識しており、それに応じて、中国をはじめとする一部企業の収益化レベルに関する予想を下方修正しています。一方、一般消費財・サービスやヘルスケア・セクターなどで市場シェアを拡大している革新的な企業を嗜好しています。ボトムアップ型の銘柄選択アプローチを行なうなか、国別では日本、インドネシア、韓国のオーバーウェイトを維持しました。セクター別では、一般消費財・サービスや素材などを主にオーバーウェイトとする一方、コミュニケーション・サービスや生活必需品などは特にアンダーウェイトとしました。具体的には、中国のオンライン融資を手掛ける企業に注目しました。同社は融資の伸びの予測に力強さがあり、オフラインでの優れた能力と高度なリスク管理システムが主な強みとなっています。また、香港の独立系保険会社を嗜好しました。同社が事業を展開するアジアのすべての主要市場において、同社は強固なリーダーとしての地位を獲得しており、またブランドイメージは確固としたものとなっています。アジアでは、加入率が低い一方で所得が上昇しており、少子高齢化によって長期的な貯蓄や補償保険商品の需要が下支えされていることから、アジアの人口動態の変化が主な恩恵をもたらすとみられます。日本のQRコード決済事業などを手掛ける会社にも注目しました。同社は、非常に価値のある決済事業を展開しており、国際的および国内の往來の再開が進むなかで、売上や収益の成長ポテンシャルが高いとみられます。また、韓国の半導体業界向け

に高純度な特殊ガスを提供する企業にも注目しました。同社は、低コストで高い価値のある製品が基盤となっています。韓国の大手企業と緊密な関係にあり、またサプライチェーン（供給網）のすべてのパートナーのリーダー的存在でもあります。これにより、新規事業開発の支援や長期的な見通しが確かなものとなっています。

（マネー・アカウント・マザーファンド）

運用の基本方針に従い、国庫短期証券の購入や現先取引、コールローンや金銭信託などを通じて、元本の安全性を重視した運用を行ないました。

### 当ファンドのベンチマークとの差異

当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

### 分配金

信託期間中における分配金は、基準価額水準、市況動向などを勘案して決定し、1万口当たりの累計は4,500円（税込み）となりました。なお、分配金に充当しなかった収益につきましては、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたしました。

## ○ 1 万口当たりの費用明細

(2021年8月31日～2022年8月29日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	258	1.262	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
（ 投 信 会 社 ）	( 61 )	(0.296)	委託した資金の運用の対価
（ 販 売 会 社 ）	(191)	(0.932)	運用報告書など各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供などの対価
（ 受 託 会 社 ）	( 7 )	(0.033)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) そ の 他 費 用	20	0.099	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（ 監 査 費 用 ）	( 1 )	(0.004)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（ 印 刷 費 用 ）	( 19 )	(0.095)	印刷費用は、法定開示資料の印刷に係る費用
合 計	278	1.361	
期中の平均基準価額は、20,451円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

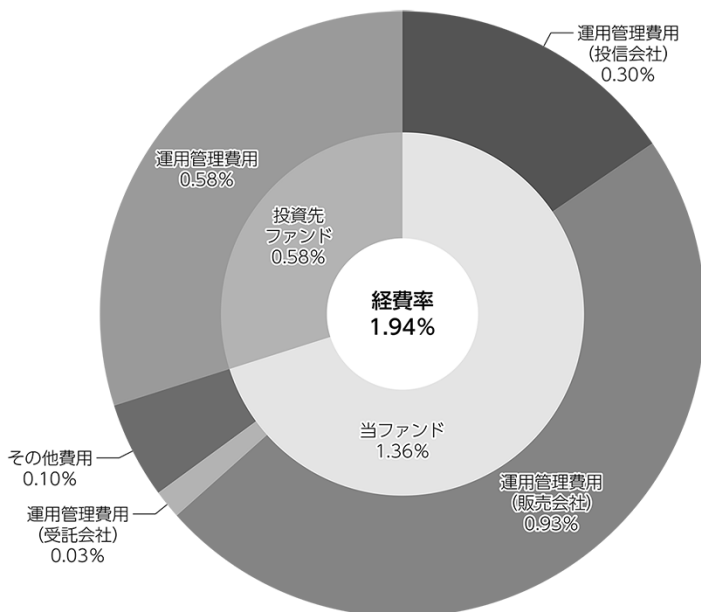
(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(注) この他にファンドが投資対象とする投資先においても信託報酬等が発生する場合があります。

## (参考情報)

## ○経費率（投資先ファンドの運用管理費用以外の費用を除く。）

期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した経費率（年率）は1.94%です。



(単位:%)

経費率 (①+②)	1.94
①当ファンドの費用の比率	1.36
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.58

(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 投資先ファンドとは、当ファンドが組み入れている投資信託証券（親投資信託を除く。）です。

(注) 当ファンドの費用は、親投資信託が支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注) 当ファンドの費用と投資先ファンドの費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) 投資先ファンドには運用管理費用以外の費用がある場合がありますが、上記には含まれておりません。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。



## ○売買及び取引の状況

(2021年8月31日～2022年8月29日)

## 投資信託証券

銘柄		買付		売付	
		口数	金額	口数	金額
国内	グラビティ・エクイティ・ファンド クラスA	千口 4,687	千円 15,540	千口 230,570	千円 656,969

(注) 金額は受け渡し代金。

## 親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘柄		設定		解約	
		口数	金額	口数	金額
	マネー・アカウント・マザーファンド	千口 84	千円 84	千口 767	千円 769

## ○利害関係人との取引状況等

(2021年8月31日～2022年8月29日)

## 利害関係人との取引状況

## &lt;日興グラビティ・ファンド&gt;

区分	買付額等 A			売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	
	うち利害関係人 との取引状況B	$\frac{B}{A}$			$\frac{D}{C}$	
投資信託証券	百万円 15	百万円 15	% 100.0	百万円 656	百万円 656	% 100.0

## &lt;マネー・アカウント・マザーファンド&gt;

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは三井住友信託銀行株式会社です。

## ○第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況 (2021年8月31日～2022年8月29日)

該当事項はございません。また委託会社に売買委託手数料は支払われておりません。

## ○自社による当ファンドの設定・解約状況

(2021年8月31日～2022年8月29日)

該当事項はございません。

## ○組入資産の明細

(2022年8月29日現在)

2022年8月29日現在、有価証券等の組入れはございません。

## ファンド・オブ・ファンズが組入れた邦貨建ファンドの明細

銘	柄	期首(前期末)	
		口	数
グラビティ・エクイティ・ファンド クラスA			千口 225,883
合	計		225,883

## 親投資信託残高

銘	柄	期首(前期末)	
		口	数
マネー・アカウント・マザーファンド			千口 682

## ○投資信託財産の構成

(2022年8月29日現在)

項 目	償 還 時	
	評 価 額	比 率
コール・ローン等、その他	千円 540,862	% 100.0
投資信託財産総額	540,862	100.0

(注) 比率は、投資信託財産総額に対する割合です。

## ○資産、負債、元本及び償還価額の状況 (2022年8月29日現在)

項 目	償 還 時	円
(A) 資産	540,862,877	
コール・ローン等	540,862,877	
(B) 負債	21,680,585	
未払解約金	17,334,662	
未払信託報酬	3,713,509	
未払利息	508	
その他未払費用	631,906	
(C) 純資産総額(A-B)	519,182,292	
元本	274,180,214	
償還差益金	245,002,078	
(D) 受益権総口数	274,180,214口	
1万口当たり償還価額(C/D)	18,935円80銭	

(注) 当ファンドの期首元本額は341,119,928円、期中追加設定元本額は7,810,803円、期中一部解約元本額は74,750,517円です。

(注) 1口当たり純資産額は1,893,580円です。

## ○損益の状況 (2021年8月31日～2022年8月29日)

項 目	当 期	円
(A) 配当等収益	△ 8,919	
受取利息	72	
支払利息	△ 8,991	
(B) 有価証券売買損益	△ 76,836,201	
売買益	6,689,321	
売買損	△ 83,525,522	
(C) 信託報酬等	△ 8,840,386	
(D) 当期損益金(A+B+C)	△ 85,685,506	
(E) 前期繰越損益金	238,672,984	
(F) 追加信託差損益金	92,014,600	
(配当等相当額)	( 46,097,387)	
(売買損益相当額)	( 45,917,213)	
償還差益金(D+E+F)	245,002,078	

(注) 損益の状況の中で(C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注) 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

上記各資産の評価基準及び評価方法、また収益及び費用の計上区分等については、法律及び諸規則に基づき、一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して評価計上し処理しています。

## ○投資信託財産運用総括表

信託期間	投資信託契約締結日	2012年9月21日			投資信託契約終了時の状況	
	投資信託契約終了日	2022年8月29日			資産総額	540,862,877円
区分	投資信託契約締結当初	投資信託契約終了時	差引増減または追加信託	負債総額	21,680,585円	
				純資産総額	519,182,292円	
受益権口数	51,557,921,167口	274,180,214口	△51,283,740,953口	受益権口数	274,180,214口	
元本額	51,557,921,167円	274,180,214円	△51,283,740,953円	1万円当たり償還金	18,935円80銭	
毎計算期末の状況						
計算期	元本額	純資産総額	基準価額	1万円当たり分配金		
				金額	分配率	
第1期	5,639,194,100円	7,802,572,547円	13,836円	500円	5%	
第2期	1,751,105,743	3,222,586,312	18,403	500	5	
第3期	1,121,480,045	2,008,579,886	17,910	500	5	
第4期	806,774,047	1,374,734,326	17,040	500	5	
第5期	627,766,762	1,212,063,849	19,308	500	5	
第6期	542,297,316	1,095,268,156	20,197	500	5	
第7期	439,581,377	748,551,836	17,029	500	5	
第8期	384,753,736	687,857,795	17,878	500	5	
第9期	341,119,928	752,567,292	22,062	500	5	

## ○償還金のお知らせ

1万円当たり償還金（税込み）	18,935円80銭
----------------	------------

## ○お知らせ

## 約款変更について

2021年8月31日から2022年8月29日までの期間に実施いたしました約款変更はございません。